

## 6. 新しいまちの土地利用

多様性を保ちながらも、町全体で統一感のある魅力的な地域空間を形成していくために、4つのゾーンを設定し、ゾーン別に土地利用の基本方向を示します。

### 森と里山のゾーン

#### “豊かな里山空間の形成”

森林の保全と育成を基調としながら、人と自然の共生できる里山空間として形成を図ります。また、町域の6分の1を占める自衛隊用地の有効な活用を図り、貴重な森林の緑を保全し、後世に伝えていきます。

### 水辺のゾーン

#### “木津川を軸とした親水空間の形成”

木津川の自然環境を保全することを基調として、水に親しめる空間の機能にも着目した水辺空間の形成を図ります。

### まちのゾーン

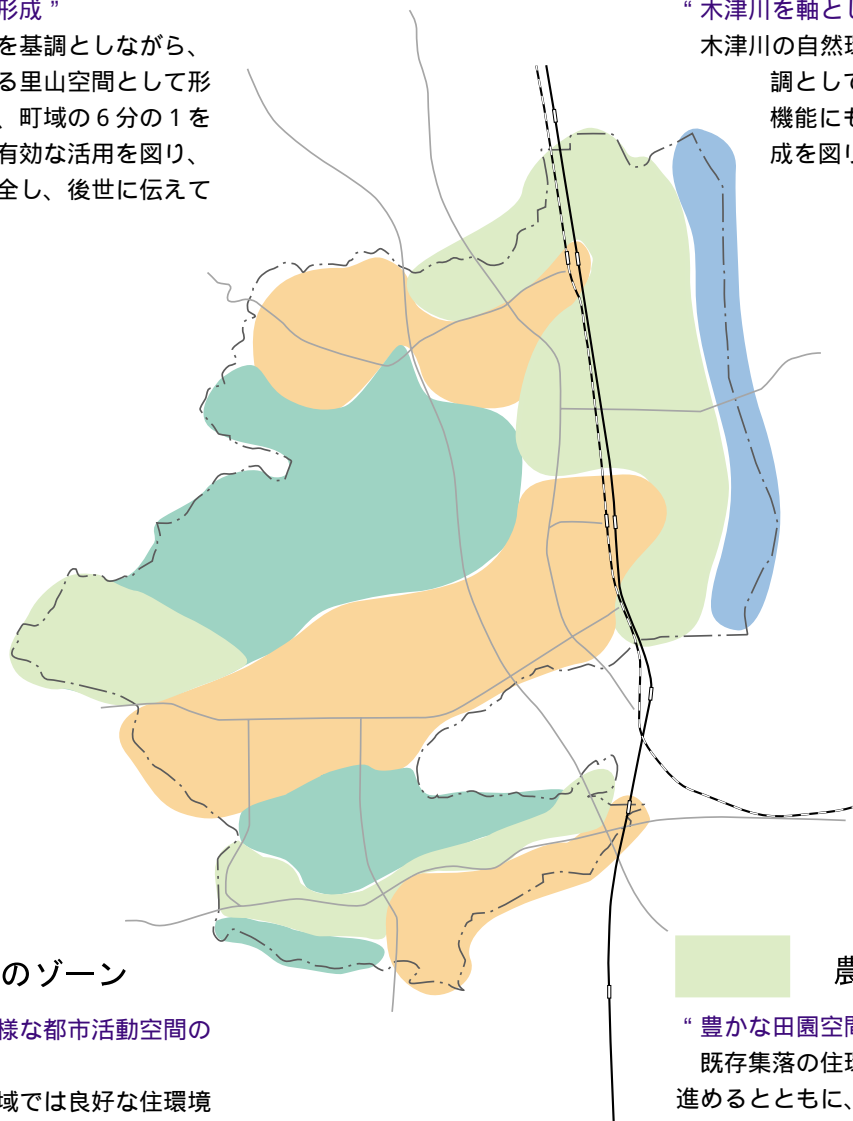
#### “良好な住環境と多様な都市活動空間の形成”

学研都市の住宅区域では良好な住環境を維持し、文化学術研究などの施設区域では研究開発や新産業創出機能を強化します。既成市街地では、住環境の維持・改善と、人々の多様な都市活動ができる地域として、バリアフリーを基本とした空間形成を図ります。

### 農と里のゾーン

#### “豊かな田園空間の形成”

既存集落の住環境と営農空間の整備を進めるとともに、貴重な田園風景の残る空間として、また市民農園や観光農園など自然とのふれあいができる貴重な空間としての形成を図ります。また、煤谷川や山田川などの河川やため池は、親水空間として住民が憩い、地域づくりに生かせる環境として位置付け、積極的な活用を図ります。



土地利用区分図